

社会を良くするためにシニアの力を結集

シニアネットワークが連絡会として発足した。経験を生かし、社会をいい方向にリードしたい、そのようなシニアによる熱意の連絡会である。

団塊世代のリタイヤ、石油ピークなど、われわれを取り巻く環境は激変していく。歳をとることは体力が衰えるなどマイナス面ばかりではなく、むしろいろいろな縛りから開放されて、シニアがのびのびと本来の能力を発揮できる。シニアは幅広い知見から俯瞰的に見ることができる。シニアネットワーク(略称SNW)は、シニアが中心となり、第一線の研究者、技術者、次世代を担う若手、学生およびシニアの世代間の連携を通して、原子力技術・学術の発展に積極的に貢献することを目的(会則第1条から抜粋)として、本年3月の理事会で承認された新しい連絡会である。

具体的にはSNWでは、以下の事業を学生連絡会などと連携し進める。

- (1) 大学での「学生とシニアの対話」活動の推進
- (2) 世代間を越えた「対話」活動の推進
- (3) 定期的にシニアネットワーク会報を発行
- (4) 学生のインターンシップ制度の充実活動

その他、若手および学生のキャリアデザイン支援に関わる事業を随時、実施する。

エネルギー危機は知識だけで意識になっていない。原子力に対する社会の信頼獲得は、まだ途上にある。身近な学生や原子力に携わる方の中にも原子力に夢や生きがいを持ってない方もまだまだたくさんいる。SNWでは、社会をリードする活動として、世代を越えた対話を通じて、また関連学会のシニアとの連携も深めて、原子力の信頼獲得と仲間の輪の拡大に努めていきたい。

SNWではこのネットワークに多くの会員の参加をお願いしたい。以下の6項目の活動に参加を希望する方は、年齢を問わず、ぜひネットワークにご加入ください。加入申込みは学会ホームページのシニアネットワーク連絡会の入会案内を参照してください。

1. ボランティアとして、チームを作って、身近な人に正しく原子力関連の情報、状況を伝えたい。
2. 激変する環境にどのように対応すればいいのか、勉強の機会を得たい。
3. 電気学会、日本機械学会、土木学会などの関連学会と連携し、幅広く原子力を検討したい。

4. 将来、原子力界に進む学生に、対話を通して、経験から得たもの、危機意識と将来への夢・熱意を伝えたい。
5. 石油資源が逼迫し激変していく社会を少しでも住みやすくするために、皆で考えるシンポジウムを計画したい、参加したい。
6. 原子力の設計者、製造者、使用者、教育関係者、研究者、マスコミなどのさまざまな分野の方々と年齢を超えて、フランクに議論、懇親できる場に参加したい。

(参考：設立記念総会)

- 5月22日 日本電機工業会館(半蔵門)にて設立記念総会(62名の参加)が行われた。(詳細は学会ホームページの「シニアネットワーク連絡会」に掲載)

(参考：当面の活動計画)

1. 7月24日午後、SNW主催の第1回シンポジウム「石油を浪費しない社会の構築とシニアの役割」を資源エネルギー学会、資源素材学会、石油技術協会、石油学会の後援で、東工大百年記念館で実施した。前半は各界の専門家の講演、後半にシニア(SNW会員)も加わり、フロアも参加して討論会を行った。好評であり、結果はSNWホームページに掲載予定。
2. 9月26日午後2時から(学会秋の大会(9月27~29日 北大にて)の前日)「学生との対話イン北海道」を北大キャンパスにて開催予定。
3. 9月27日(秋の大会初日)の午前中に、SNW企画セッション「オイルピークの時代にどう対応するか、その生活哲学と学生の夢支援、キャリアデザイン支援を考える」を開催する。
4. 9月27日昼に、SNW運営委員会、総会を行う。
5. 学生との対話イン関東を11月初旬に東大本郷で行う。近隣の他の大学(武蔵工大、東工大、東海大)の参加も呼びかける。

(シニアネットワーク・天野 治)